

令和4年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(能代市)

1 市の概要(人口 48,420 人)

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和4年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
2 園	2 園	4 園	1 2 か所	0 園	0 園	7 校

その他:個人 へき地保育所 小規模保育 事業所内 認可外1園

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- 就学前施設において、保育士不足等を背景に、職員の育成が困難となっている状況が見られる。
- 就学前施設、小学校職員双方において、接続期における子どもの育ちや学び、保護者支援に対する理解に相違がある。
- 特別な配慮を必要とする児童やその保護者に対する支援の在り方について検討が必要である。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目 的(3年間)

幼児教育・保育アドバイザーの巡回訪問等により、各施設の課題等に対する助言等を行い、就学前施設と小学校教育との円滑な接続等に向けた継続的な支援を行うなど、教育・保育の質の向上を図る。

主な内容(3年間)

教育委員会及び子育て支援課の連携による教育・保育の推進体制の充実

- 幼児教育・保育アドバイザーによる市内全保育所等及び小学校への巡回訪問・助言等
- 専門性向上のための職員研修会の開催
- 就学前施設・小学校の職員を対象にした合同研修会の開催
- 県との連携体制の強化

年度別重点

令和4年度	部局間において、教育・保育の質向上に向けた取組に係る基本的な考え方を共有し、効果的な事業推進体制を構築する。
令和5年度	幼児教育・保育アドバイザーによる施設訪問や研修機会の拡充等を通して、幼保小における子ども理解や保護者支援の相互理解を促進する。
令和6年度	架け橋期のカリキュラム開発の取組等により、部局間及び幼保小の連携強化を図る。

4 令和4年度の詳細

目 的

乳幼児期は人格形成の基礎を培う最も重要な時期であるとの認識の基、就学前施設及び小学校職員等を対象とした研修会等を通じて、接続期の子ども理解や保護者支援に対する相互理解を促進し、市全体の教育・保育の質の向上を図る。

実施内容

(1)「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ①教育委員会及び子育て支援課の連携による教育・保育の推進体制の充実
 - ・他市町村における取組事例等を参考に、就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた課題等の把握(通年)
- ②幼児教育・保育アドバイザー1名を学校教育課へ配置(所属は子育て支援課)

・学校教育課及び子育て支援課におけるアドバイザーの活動内容の情報共有

③学校教育課による就学前の幼児通級指導教室の実施

④学校教育課配置の特別支援教育コーディネーター及び特別支援教育アドバイザーの活用

<○成果と●課題>

○幼児教育・保育アドバイザーが就学前施設・小学校への訪問を重ねたことにより、事業の周知が図られた。

○学校教育課による幼児通級指導教室は継続実施され、小学校低学年の通級教室とともに、定着している。

●幼児教育・保育アドバイザーの役割を明確にし、学校教育課と子育て支援課の連携をさらに強化していく必要がある。

●就学前施設に対し、特別支援教育コーディネーター及び特別支援教育アドバイザーの活用について周知に努める必要がある。

(2)「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

○幼児教育・保育アドバイザーによる市内全保育所等及び小学校への巡回訪問・助言等

・就学前施設等における課題の洗い出しと整理（4半期に1回程度の訪問）

・就学前施設及び小学校からのニーズの共有及びサポート（随時）

◇令和4年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（能代市）

⑥派遣目標 計 25施設／全25施設 100回	
回	・幼稚園：私立2園（8回）
数	・保育園：公立4園（22回）、私立8園（40回）
	・幼保連携型認定こども園：私立4園（16回）
	・その他の施設：小規模保育施設 か所（ 回）、認可外保育施設 か所（ 回）、事業所内保育施設 か所（ 回）
	・小学校： 7校（14回）
訪	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、18園（18回））
問	・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、 園（ 回））
内	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、 園（ 回））
容	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、18園（27回））
	・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、18園（18回））
	（目標のうち、7校（7回））
	・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、14園（14回））
	・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、7校（7回））
	（目標のうち、9園（9回））
理	・事業周知のため、各園、小学校に実態把握等のねらいで定期的に訪問する。
由	・幼保小連携の実態把握のため、小学校区ごとに連携・交流の情報を得て訪問する。
	・園のニーズを把握し、園内研修等に継続的に訪問する。

<○成果と●課題>

○幼児教育・保育アドバイザーが就学前施設・小学校を訪問し、各施設の現状や課題等について聞き取るとともに、幼保小連携の必要性や保育研修の重要性等について確認することができた。

○幼児教育・保育アドバイザーが保育参観等で園を訪問し、各園の保育の実際について知り、園の課題や要望を把握することができた。

○幼保小の連携、交流の様子を取材し、通信で紹介することで、連携を進めるよう働きかけた。

●園内研修での幼児教育・保育アドバイザーの活用を図るための周知が必要である。

●園の体制や規模の違いにより、園の経営、環境、保育理念などそれぞれ特長があり、課題や要望も多様であるが、全体で取り組むべき課題等を整理、共有し、教育・保育体制の充実につなげていく必要がある。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

保育の在り方についての研修等を通して、子ども理解や保育の実践的指導力の向上を図る。

- ・ 能 代 市 保 育 研 修 会



開催日 11月21日（月）

場 所 能代市役所

内 容 講話「乳幼児保育の在り方と子ども理解」

豊かな経験に基づく講話に聞き入る参加者

講師 大館市立花岡小学校 校長 浅野 直子 氏

協議「子どもの発達に応じた保育について」

参加者の感想

- *他の保育者の保育観を聞くことができ、視点の違いなどとても参考になった。
- *未満児保育がこの先子どもたちを形作っていくのだと思った。

- ・ 能代市保育実践研修会

開催日 1月23日（月）

場 所 能代市役所

内 容 講話・演習「指導要録・保育要録の作成について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

参加者の感想

- *自分の表記の仕方を振り返ることができた。リフレーミングについて意識して要録を作成していきたい。
- *指導要録を書くことに不安を感じていたが、書き方のコツを知ることができた。

<○成果と●課題>

- コロナ禍ではあったが、保育研修会を実施し、対面での意見交換等を通じて保育士同士がつながるきっかけとすることができた。
- テーマや実施時期等、園のニーズを把握し、複数年を視野に入れた研修会の計画を立案していきたい。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ①就学前施設及び小学校職員を対象とした合同研修会の開催
幼保小の相互理解を図り、連携を進める。

- ・ 第1回能代市幼保小連絡推進協議会

開催日 5月17日（火）

場 所 能代市役所二ツ井庁舎

内 容 講話「育ちや学びをつなぐための連携について」

講師 幼児教育・保育アドバイザー 簾内 正子

協議 幼保小連携計画立案



小学校区で連携について協議

参加者の感想

- *会をきっかけに先生方を知るよい機会になった。子どもの情報交換もでき有意義だった。
- *授業・保育参観し合うことや日常の子どもたちの様子を見合ったり交流したりする計画を立てることができたので、実施に向けて園にも働きかけていきたい。

- ・ 令和4年度就学前・小学校能代地区合同研修会

開催日 8月2日（火）

場 所 能代山本広域交流センター

内 容 講話「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 庄司 伸子 氏

演習・協議「幼保小の育ちと学びのつながり」



演習 育ちと学びをつなぐ

参加者の感想

＊幼児教育の基盤があつてこそ1年生の円滑なスタートにつながっていくことを再認識した。
資料や説明が分かりやすく、学校に戻ってしっかり伝えたい。

＊園生活の遊びの1場面から見える姿や子どもの育ちは、学習時の基礎となる「やってみたい気持ち」「なんだろうと思う気持ち」に大きくかかわっていることが分かった。就学までに様々な経験や自信を積み重ねていくことが喜んで就学に向かえるきっかけにもなると思った。

・第2回能代市幼保小連絡推進協議会

開催日 11月30日（水）

場 所 能代市役所二ツ井庁舎

内 容 講話「幼児教育スタートプランについて」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

協議「『幼保小架け橋プログラム』実施に向けて必要なこと」

参加者の感想

＊これまでは子どもの情報交換が主になってしまっていたが、これからは教育課程も話題にし、資質・能力をつなぐためのカリキュラムデザインを幼保小の先生方で協働で行いたいと思った。

・第3回能代市幼保小連絡推進協議会

開催日 3月3日（金）

内 容 情報交換

②学校教育課及び子育て支援課で連携のための情報共有、意見交換等（通年）

<○成果と●課題>

○就学前・小学校合同研修会を初めて市単独で開催することができた。県の支援による開催ではあるが、市が主体となって行うことで、参加者の意識の高まりが見られた。

●幼保小連携に関する会合のため、参加対象が架け橋期の担当に偏りがちであるが、子どもの育ちを考えるとという視点から見ると、管理職や他の学年・年齢の担当も視野に入れる必要がある。

（５）「県との連携体制の充実」

①県と連携しながら就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた継続的指導や支援

②就学前教育推進協議会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加

③県教育・保育アドバイザーの育成支援の活用

④県主催の連絡協議会等の事業を通じた他市町村との情報交換等

⑤保育所の要請訪問及び認定こども園訪問等への同行

<○成果と●課題>

○実施初年度ということもあり、県のアドバイザー連絡協議会での講話や他市の参加者からの指導助言や特色ある取組等、参考になることが多く、大変勉強になった。

○県の要請訪問等への同行は、保育参観、研究協議の助言等、実際の保育を基にした保育の見方を知る非常に有効な学びの機会となった。

○幼保小連携推進協議会、就学前・小学校合同研修会等、県の支援により、事業の意義を認識し、より有効な研修となるような助言を得て開催することができた。

●県教育・保育アドバイザーの育成支援をより積極的に活用すべきだった。初年度ということ

もあり、活用する必要性は高いのだが、活用に結び付けることができず残念だった。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和4年度)の成果と課題

＜成果と課題＞

- 事業実施初年度のねらいは、幼児教育・保育アドバイザーの存在を就学前施設及び小学校に認識してもらうことであった。巡回訪問等を通じて徐々に認識されてきており、各施設における課題等も把握することができた。
- 幼保小連携推進のための研修会や市主催の保育研修会の実施等、施設形態の別なく職員同士が情報交換を通して学び合える機会を拡充することができた。
- 幼児教育・保育アドバイザーの一層の活用を図るため、役割を明確にするとともに具体策を探り、周知を図っていく。
- 架け橋期のカリキュラム開発に向けた取組を通じて、部局間の連携及び幼保小の連携強化を図っていく必要がある。